

のど自慢な一日

1946年から放送されているNHKの長寿歌番組「のど自慢」が安曇野にやってきました。当日の県内の視聴率は21%。市の誕生をアピールしこの地域に「元気」をもたらしてくれました。イベントの様子をカメラで追いました

午前4時30分

6月11日(日)、「NHKのど自慢」の公開生放送を迎える朝穂高会館前には、開場を待つ観客の長い列ができています。朝方は少し雨も降ったという中、会場一番乗りをした人は、午前4時30分に並んだという穂高在住の女性(58)。「勤め先の松本から直行して会場にきました。歌がうまいだけでなく、いろいろな人が出るのが、のど自慢の魅力。楽しい人や歌うことが好きな人の登場を期待しています」と笑顔で話します。

矢島有紀子さん(28)は、本選に出場する古屋八重子さん(48)の孫とともに、応援に駆け付け、「母は昨日、一睡もできなかったようです。孫たちもおぼあちゃんの歌が頭の中でずっと流れているようです」と本番前夜を振り返ってくれました。今日の応援に備え、孫の宏太くん(9)は昨夜、お母さんと一緒に、手作りの横断幕を用意したそうです。開場時間は午前11時。あと数時間で、おぼあちゃんの歌を聞くことができます。



会場の外は長い列。ほとんどが自由席のため、どの席に座るかは早い者勝ちとなる

選考は「狭き門」

本選に出場した三郷の原田春美さん(87)は、「のど自慢は毎週楽しみに見ている、ニュースで安曇野に来ると知ったとき、すぐ申し込みを決めた」と話す。とても元気なおじいさん。出場者の中では最年長だった原田さんは、リハーサルや打ち合わせの席でも、動じることはありません。

ません。

本選のステージに立つには、845組の応募から抽選で選ばれ、さらに、250人が出場する予選会で勝ち抜く必要があります。「若い頃から歌が好きで、今も福祉センターで歌うのが日ごろの楽しみになっています。歌は自分にとって人生の楽しみ」。歌に対する純粋な気持ちで原田さんの表情から伝わってきました。



イベントが始まる前の会場は整然とした雰囲気。この日のために総勢200人余りのスタッフが準備などにかかっている



「3度のごはんより歌が好き」と話す原田さん。緊張した様子はほとんどない。本番のステージでも絶好調!

